年間授業計画　新様式例

高等学校 令和６年度　　教科　数学　　科目 数学Ｂ

教　科：　数学　　科　目：　数学Ｂ　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　3 学年　1 組～　5 組

教科担当者：（1組：島村）　（2組：島村）　（3組：島村）　（4組：島村）　（5組：島村）

使用教科書：（ 最新　数学Ｂ（数研出版）　　）

教科　数学　　の目標：

【知識及び技能】数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】数学を活用して事象を論理的に考察する力，事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目　数学Ｂ　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と社会生活の関りについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力，日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	・簡単な数列とその和について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。	・生徒の理解度を把握しながら、教科書に沿って指導する。 ・課題配信や教材提示等をするために、一人１台端末を活用する。	【知識・技能】 ・数列の定義，表記について理解している。 ・等差数列および等比数列のの公差，一般項，和の公式などを理解している。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【思考・判断・表現】 ・等差数列の項を書き並べて，隣接する項の関係が考察できる。 ・等比数列の項を書き並べて，隣接する項の関係が考察できる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・数の並び方に興味をもち，その規則性を発見しようとする意欲がある。 （授業態度・課題提出）	○	○	○	15
	・記号Σの意味を理解し，Σの式を和の形で表したり，数列の和をΣの式で表したりすることができる。 ・漸化式と数学的帰納法について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。	・生徒の理解度を把握しながら、教科書に沿って指導する。 ・課題配信や教材提示等をするために、一人１台端末を活用する。	【知識・技能】 ・記号Σの意味を理解し，数列の和をΣの式で表したりすることができる。 ・漸化式を適切に変形して，その数列の特徴を考察することができる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【思考・判断・表現】 ・初項から第n項までの和に着目して，一般項を考察できる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自然数の2乗の和を工夫して求める方法に興味をもち，自然数の2乗の和の公式を導こうとする意欲がある。 （授業態度・課題提出）	○	○	○	15

2学期	・確率変数とその分布について理解し，それらを不確定な事象の考察に活用できるようにする。	・生徒の理解度を把握しながら、教科書に沿って指導する。 ・課題配信や教材提示等をするために、一人１台端末を活用する。	【知識・技能】 ・確率分布を計算式や分布表を用いて表すことができる。 ・確率変数の期待値，分散，標準偏差を求めることができる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【思考・判断・表現】 ・確率変数の期待値，分散，標準偏差を用いて確率分布の特徴を考察することができる。 ・正規分布の特徴を理解し，さまざまな視点からとらえられる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・確率的な試行の結果を表すのに確率分布を用いることのよさに気づき，確率分布について積極的に考察しようとする。	○	○	○	15
	・統計的な推測について理解し，それを不確定な事象の考察に活用できるようにする。	・生徒の理解度を把握しながら、教科書に沿って指導する。 ・課題配信や教材提示等をするために、一人１台端末を活用する。	【知識・技能】 ・母平均と母標準偏差がわかれば，標本平均の値がどのくらいの確率で現れるか推測できることを理解している。 ・仮説検定にかかわる用語を適切に活用することができる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【思考・判断・表現】 ・母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわかる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・母集団や標本の特徴を理解しようとする。	○	○	○	15

３学期	・社会生活などにおける問題を，数学を活用して解決する意義について理解するとともに，日常の事象や社会の事象などを数学化し，数理的に問題を解決する方法を知る。	・生徒の理解度を把握しながら、教科書に沿って指導する。 ・課題配信や教材提示等をするために、一人１台端末を活用する。	【知識・技能】 ・日常生活における問題や社会問題を数学的に考察するときの手順を理解している。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【思考・判断・表現】 ・問題解決の過程や結果の妥当性について批判的に考察し，別の仮定を立てて考察することができる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題解決の過程や結果の妥当性について批判的に考察したり，そこで用いた方法を一般化したりして，別の仮定について積極的に考察する。 （授業態度・課題提出）	○	○	○	10
							合計 70